

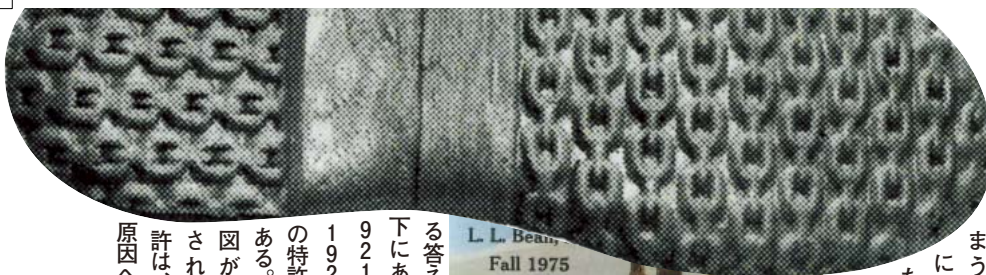
LL Bean

【L.L. Bean物語】

グレートブランド物語

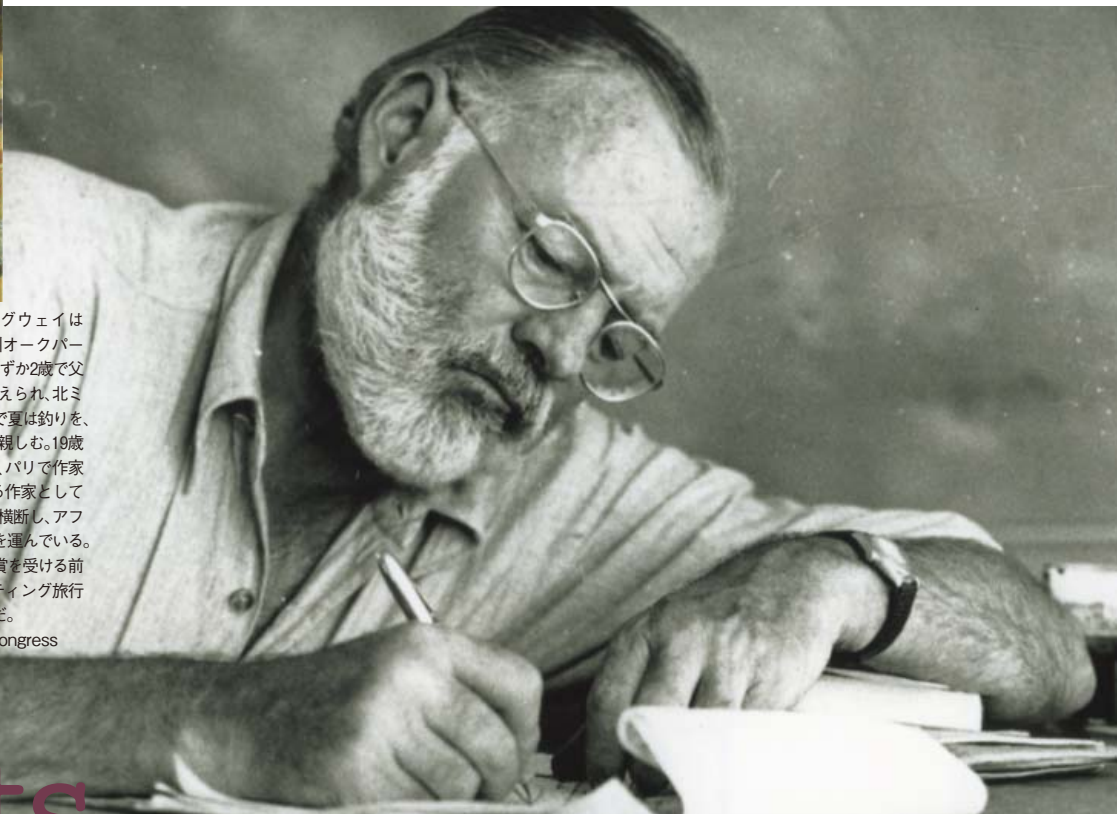
Great Brand Story
第1回：文と構成／河村喜代子

世紀をまたぐ名品が戸口に届く。
L.L. Beanは郵便受けにやつて来る
アウトドアアシヨップ。
半分ゴム、半分レザーのブーツは
L.L. Beanの始まりのころから
90年を超す時間が過ぎた現在を
つないでいる。



鎖模様の滑り止め模様があるブーツのソール。ヒールとつま先では鎖の向きが違う。

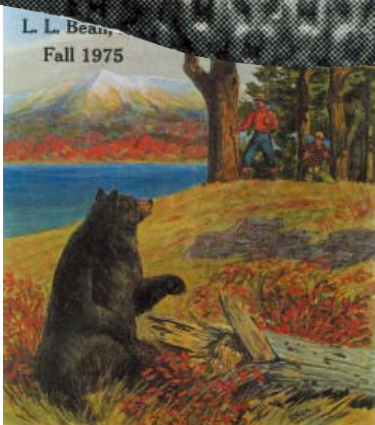
創業の当初から定められていた。顧客に対して100%の満足を保証し、L.L. Beanの「一足」には「購入した商品に満足したくない場合は返品も返金も保証する」というポリシーを付けて送り出した。当時の常識では返金に応じる方針は大胆だった。実際に問題が起きた時に、レオンはタグどおりに約束を守った。その問題の原因とはブーツのゴムとレザーのつなぎ部分に問題があった。それに対処す



アーネスト・ヘミングウェイは1899年にイリノイ州オークパークで生まれている。わずか2歳で父親から釣り道具を与えられ、北ミシガン湖で夏は釣りを、冬はハンティングに親しむ。19歳でヨーロッパに渡り、パリで作家として立つ。行動する作家として両大陸をひんぱんに横断し、アフリカへもしばしば足を運んでいる。写真はノーベル文学賞を受ける前年に、ケニアへハンティング旅行に出かけたときの姿だ。
Photo/Library of Congress

自然も楽しめる。それを身で知った人物は、レオンだけではなかった。L.L. Beanのブーツが販売された頃、ヘミングウェイはミシガン湖の森の中で父親とハンティングをして過ごしていた。ヘミングウェイがいつかL.L. Beanのブーツと出会ったかは明らかではないが、生涯ハンティングから離れることなかった作家は、L.L. Beanのブーツをハンティングの最良のパートナーと呼んだ。

る答えは、下にある1921年と1927年の特許図にある。左の図が添付された特許は、返品原因への真



撃な答えになっていた。図中の番号19で示されるレザーのタンク部分と、ブーツ下部にあたる番号11のゴムとの取り付け箇所を補強し、アッパー部の防水を確実にする。次にアッパー部分の擦れる箇所を切れることを防ぐ。さらにはタンクの

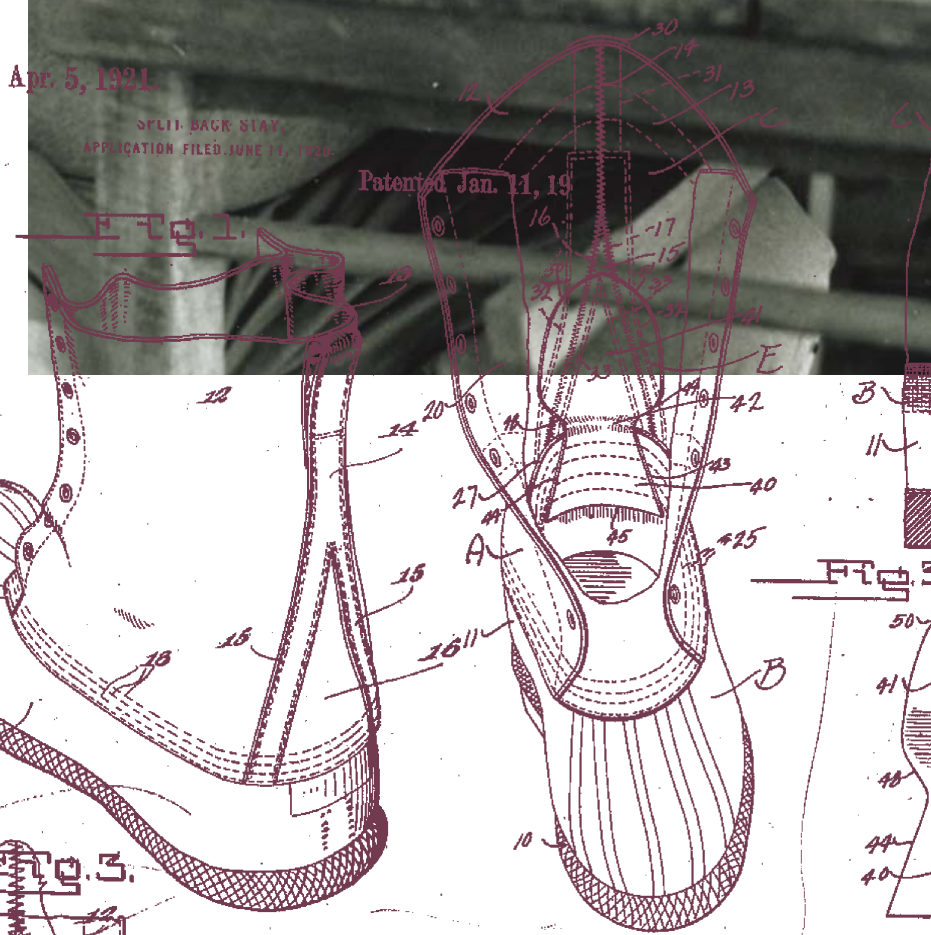
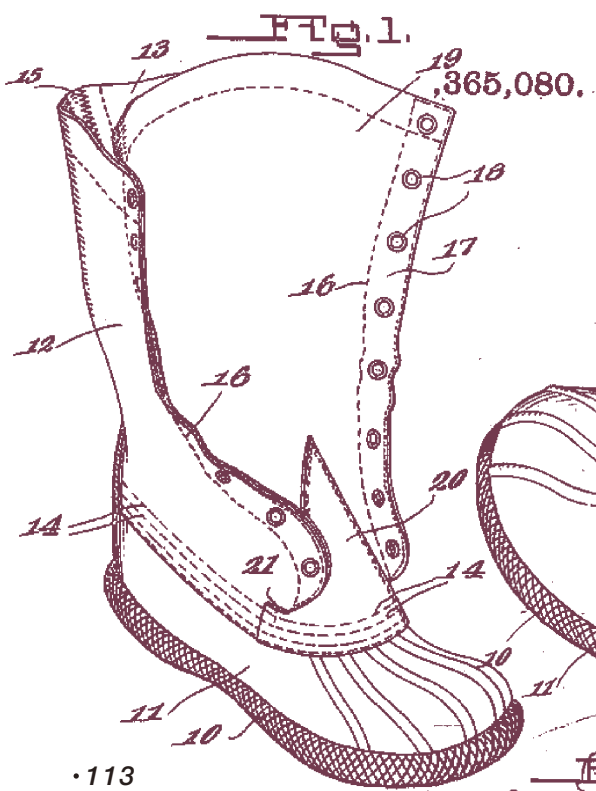
Hunting Boots

メインの雪の野山を歩き回るためのブーツ

APPLICATION FILED JUNE 11, 1920.

73,399.

Patented Apr. 5, 1921.



その後、送り返された。考案者はレオン・レオンウッド・Bean自身であり、必要は発明の母」という道具ができる大原則に則って生まれた。ハンティングガイドをしていたレオンは、一日を快適に歩けるブーツを切実に必要としていた。雪の野山を歩き回って、水を吸って重くなったブーツを引きずって歩くほど不快なことはない。疲れもした湿

秤の針が、2ポンド約900gで止まっている。秤にのせられた靴がメイン・ハンティング・ブーツだ。L.L. Beanを代表するアイテムとして1911年にこの世に

Outdoor Activities

アメリカの伝統 アウトドアを楽しむ

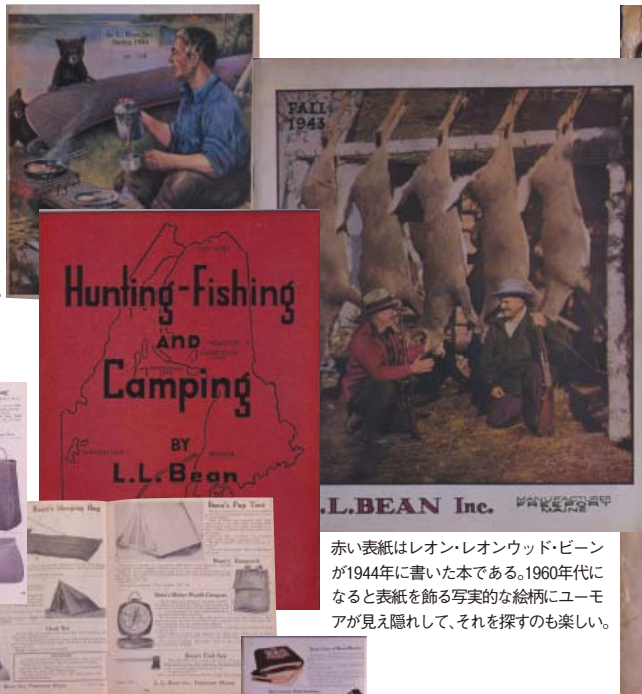
下は1924年のカタログ。二折折りだった。カタログをどんだん集めてハト目のところで綴じておく方式。ビン・ブーツはメイン・ハンティング・シューズなど微妙に呼び名が動くが、L.L.ビーンどの時代のカタログにもこのスタイルに似たページが必ず見つかる。右の1924年のカタログでは足のアーチを保持することの大切さを説明している。これが前出の1927年のブーツ特長につながった。

1920年代から1930年代

1912年に400ドルの現金を元手に、兄弟が営む店の地下から始まったL.L.ビーンが最初に出したカタログはわずか4ページだった。頼りにするはずのビン・ブーツは、返品の山を築いてくれただけで、当初は苦戦がつづいた。その間もアウトドア雑誌には「無料カタログ差し上げます」の広告を出すことはやめなかった。第1次大戦を迎える頃のカatalogには、ビン・ブーツだけでなくアウトドア用品の衣類や道具がイラスト入りで並ぶまでになった。いま手元に1931年のカタログがあるが、ここでは商品説明文はキビキビとして素気ないくらいだ。ときにニヤリとさせられるウィットが挟み込まれていて、つい道具が使われる現場をのぞいてみたい。1930年代にアメリカは大不況時代に突入する。それでもL.L.ビーンのカatalogは、表紙だけはカラーで印刷されて、勢いよく水面から飛び出したトラウトが身を躍らせていた。カatalogの内容は、太いストライプのハドソンベイ毛布やアディロンダックのバスケットバッグといったネイティブ・アメリカンに由来するアウトドア用品からフイールド・ジャケットにボケットナイフにメスキット、さまざまな道具を野外に持ち出すためのバッグなどがそろっていた。第2次大戦にアメリカが参戦を決めると、レオンはワシントンのアメリカ陸軍補給隊本部に招かれた。歩兵にとつての最重要品目、防水のできるブーツの相談を受けたから、防水防寒の衣類でも貢献することができた。海軍にはマップケースを製作納入して、海水をかぶってカバンに入れた地図が濡れるようでは困るし、革が固くなって使いものにならないカバンでは困るからだ。

1912

1912年に400ドルの現金を元手に、兄弟が営む店の地下から始まったL.L.ビーンが最初に出したカタログはわずか4ページだった。頼りにするはずのビン・ブーツは、返品の山を築いてくれただけで、当初は苦戦がつづいた。その間もアウトドア雑誌には「無料カタログ差し上げます」の広告を出すことはやめなかった。第1次大戦を迎える頃のカatalogには、ビン・ブーツだけでなくアウトドア用品の衣類や道具がイラスト入りで並ぶまでになった。いま手元に1931年のカタログがあるが、ここでは商品説明文はキビキビとして素気ないくらいだ。ときにニヤリとさせられるウィットが挟み込まれていて、つい道具が使われる現場をのぞいてみたい。1930年代にアメリカは大不況時代に突入する。それでもL.L.ビーンのカatalogは、表紙だけはカラーで印刷されて、勢いよく水面から飛び出したトラウトが身を躍らせていた。カatalogの内容は、太いストライプのハドソンベイ毛布やアディロンダックのバスケットバッグといったネイティブ・アメリカンに由来するアウトドア用品からフイールド・ジャケットにボケットナイフにメスキット、さまざまな道具を野外に持ち出すためのバッグなどがそろっていた。第2次大戦にアメリカが参戦を決めると、レオンはワシントンのアメリカ陸軍補給隊本部に招かれた。歩兵にとつての最重要品目、防水のできるブーツの相談を受けたから、防水防寒の衣類でも貢献することができた。海軍にはマップケースを製作納入して、海水をかぶってカバンに入れた地図が濡れるようでは困るし、革が固くなって使いものにならないカバンでは困るからだ。



第2次大戦時代1950年代から1960年代

1960年代のL.L.ビーンのカatalogではアウトドアグッズばかりでなくスポーツバッグや家族で使うための道具や用品、男性だけでなく女性用の衣類へと、どんどん品目が増えてきた。黄色の帯がかかる下にあるカatalogは創立50周年のもの。



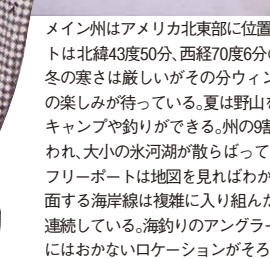
左が創立50周年カatalog。1967年にレオン・レオンウッド・ビーンがこの世を去り、代わって孫のレオン・ゴーマンが社長に就任する。その年の販売総額は460万ドルの数字を残す。



1960年代のL.L.ビーンのカatalogではアウトドアグッズばかりでなくスポーツバッグや家族で使うための道具や用品、男性だけでなく女性用の衣類へと、どんどん品目が増えてきた。黄色の帯がかかる下にあるカatalogは創立50周年のもの。

1960

1960年代のL.L.ビーンのカatalogではアウトドアグッズばかりでなくスポーツバッグや家族で使うための道具や用品、男性だけでなく女性用の衣類へと、どんどん品目が増えてきた。黄色の帯がかかる下にあるカatalogは創立50周年のもの。



メイン州はアメリカ北東部に位置し、フリーポートは北緯43度50分、西経70度6分の地点にある。冬の寒さは厳しいがその分ウィンタースポーツの楽しみが待っている。夏は野山を歩いて湖畔でキャンプや釣りができる。州の9割は森林におおわれ、大小の水河湖が散らばっている。海が近いフリーポートは地図を見ればわかるが、大西洋に面する海岸線は複雑に入り組んだフィヨルドが連続している。海釣りのアングラーも引きつづけにはおかないロケーションがそろっている。



1937年のカタログでは身をくねらせながらかなりの大物がフライを追いかけて水上に飛び出てきている。その絵はフライフィッシャーを挑発し、美しいカラーで印刷された表紙は彼らを自然へ誘う招待状になったことだろう。ここに並んだカatalogは1930年代後半から40年ものだが、少しも古さを感じさせない。

1936年のカタログではハドソンベイ毛布が掲載されているページだけカラーで印刷されていた。アウトドアで使う道具はテント内で使う毛布でも防水に優れていることが基本だ。

New Millennium Backpack Age

2001年新世紀の始まり L.L.ビーンのリジェンドアイテム



1987年のカタログにあるトートバッグ。L.L.ビーンの商品は時代を超えている。

1987年のカタログにあるトートバッグ。L.L.ビーンの商品は時代を超えている。

右)10インチ、シアリング・ビーン・ブーツ(色ブラウン/ブラウン)価格:2万円。左)8インチ、ビーン・ブーツ(色タン/ブラウン)価格:1万6000円。下)6インチ、ビーン・ブーツ(色タン/ブラウン)価格:1万3900円



↑左)オリジナル・ボート・アンド・トートバッグ、オープントップ(サイズM、色ブルー)価格:3400円。↑右)バーシティ・ロゴ・アンド・トートバッグ(サイズL、色レッド)価格:4900円。→右最奥)フード付きのジャケットは、ビーンズ・アセント・ゴアテックス・ジャケット(サイズM、色マウンテングリーン/ディープロードン)価格:4万6000円。

赤いビニールコーティングのジップアップ付きトートバッグは個人所有の参考品。



ビーンズ・オリジナル・フィールドコート、コットンの裏地付き(サイズM、色サドル)価格:1万6000円

プライマロフト・ジャケット。繊維構造がダウンに似たプライマロフトは軽く温かく水濡れに強い(色マウンテングリーン/ディープロードン)価格1万7000円

(参考品)

(参考品)



Kelty Pack Frames and Bags
A versatile frame, lightweight and bed-mounted. Designed to protect your bag in the most difficult conditions. Made from high strength, hollow, welded aluminum alloy tubing. Fitted with 20 padded nylon straps. 1" wide adjustable nylon buckles. High top nylon webbing. Top shoulder strap with a high breaking force when attached. Good quality nylon.

Size: 14 1/2" x 27". Weight 31 oz. Recommended for persons 5'7" to 6'2".
Medium: 14 1/2" x 27". Weight 31 oz. Recommended for persons 5'7" to 6'2".
Large: 17 1/2" x 31". Weight 35 oz. Recommended for persons 5'11" to 6'6".
Pack Price (all sizes): \$35.25 postpaid.
Pack Bag: Made from a special light weight 600 denier nylon. High top shoulder strap and adjustable nylon straps. Fits most bed mounted packs. High breaking force when attached. Good quality nylon.

1970年代のアメリカで、バックパッカーの時代がやってきました。このインジューレイトに使われているプライマロフトというマテリアルは、1980年代にアメリカ陸軍が第2次大戦からつくったM-65フィールドコートに代わる次世代防寒着の開発を求めたなかから生まれてきた。空気を遮断して温かさを保つ能力はダウンと肩を並べるものよりも軽い。水や湿気に対する性能はダウンの1.5倍。つまりダウンのように軽く温かい上に、水を含まないというダウンにはない性能を持っている。水に濡れて冷たくなったブーツを脱ぎ捨てたレオン・レオンウツド・ビーンがこのジャケットを知った。きつと気に入るだろう。ポケットに丸めてしまってもかまわない。実際にそう

1970年代のアメリカで、バックパッカーの時代がやってきました。このインジューレイトに使われているプライマロフトというマテリアルは、1980年代にアメリカ陸軍が第2次大戦からつくったM-65フィールドコートに代わる次世代防寒着の開発を求めたなかから生まれてきた。空気を遮断して温かさを保つ能力はダウンと肩を並べるものよりも軽い。水や湿気に対する性能はダウンの1.5倍。つまりダウンのように軽く温かい上に、水を含まないというダウンにはない性能を持っている。水に濡れて冷たくなったブーツを脱ぎ捨てたレオン・レオンウツド・ビーンがこのジャケットを知った。きつと気に入るだろう。ポケットに丸めてしまってもかまわない。実際にそう



1971年のカタログにクルーザーバックフレームというL.L.ビーン独自のフレームとバックがある。有名なキャンプトレイルもありバックファンをうならせるものがそろっていた。



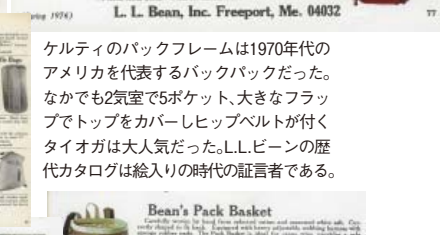
アメリカが変わった。若者の時代がやってきた

1960年代の日本ではアメリカ製品そのものが、まだ縁遠かった。知っていたとしても第2次大戦直後のサブライム品くらいだったはずだ。それが1970年代に大きく変わる。アメリカの社会が変革の時代を迎えていた。L.L.ビーンのカタログから見ると、バックパッキング用のアイテムが多くなる。代表は毎号顔をだしているケルティだった。アウトフレイムのバックが主流になる時代がやってきていた。アポロ計画によって地球を外から見る視点を手に入れたのが1969年だった。そのこととケビン・ケリーらのホールアイスカタログが生まれてきたのは、無関係ではない。

1970年代の日本ではアメリカ製品そのものが、まだ縁遠かった。知っていたとしても第2次大戦直後のサブライム品くらいだったはずだ。それが1970年代に大きく変わる。アメリカの社会が変革の時代を迎えていた。L.L.ビーンのカタログから見ると、バックパッキング用のアイテムが多くなる。代表は毎号顔をだしているケルティだった。アウトフレイムのバックが主流になる時代がやってきていた。アポロ計画によって地球を外から見る視点を手に入れたのが1969年だった。そのこととケビン・ケリーらのホールアイスカタログが生まれてきたのは、無関係ではない。



1971年のカタログにクルーザーバックフレームというL.L.ビーン独自のフレームとバックがある。有名なキャンプトレイルもありバックファンをうならせるものがそろっていた。



ケルティのバックフレームは1970年代のアメリカを代表するバックパックだった。なかでも2気室で5ポケット、大きなフラップでトップをカバーしヒップベルトが付くタイオガは大人気だった。L.L.ビーンの名代カタログは絵入りの時代の証言者である。

2008.....1990.....1980

新しい世紀の始まり
その足元には
あのハンティングブーツがいる。

Photo:WPP Archives, Nagatori Tsutsumi (WPP)
なお本文内容は編集部取材によるものです。

・117 ⑧L.L.Bean カスタマーサービスセンター
0120-81-2200 http://www.llbean.co.jp

トートバッグ、フィールドコート
マウンテンパーカーに
そしてビーン・ブーツたち。
それらは一目でL.L.ビーンだと
わかる定番アイテムとなり
長く愛されるカジュアルウェアになった。

No. 440 Pack Bag
Made from heavy duty military specification duck. Water repellent and mildew resistant. Fits both the Cruiser Pack Frame and the Featherweight Pack Frame, shown above.
Has three large bellows type outside pockets with nylon tie-down cords. Extra large top flap to protect and expand load. Quickly attached to frame.
Color: Light Brown.
Size 21" x 14" x 7". Weight 19 oz.
Price, No. 440 Pack Bag, \$11.10 postpaid.
(See Page 72 for Pack Frame Accessories)

L. L. Bean, Inc. Freeport, Me.

ミリタリースペシフィケーションに則ったダック地で製作されたNo.440バックパック。アウターポケットが3つあり、本体のフラップもそうだがひもを結んで閉める。このひもだけがナイロンである。このバックをクルーザーフレームなどに取り付けて使う。バックのフレームへの着脱が簡単にできた。バック本体は水をはじく処理と防カビ処理はされていた。

1944年の秋に降りばらく姿を見なかった氷を持ち運ぶバック。アイスキヤリアが60年代にボートとトートバッグとして復活する。日本でL.L.ビーンの存在を知らせる役目を担ったのもこのバック。

ケルティのバックが
リードした
バックパッキングの時代